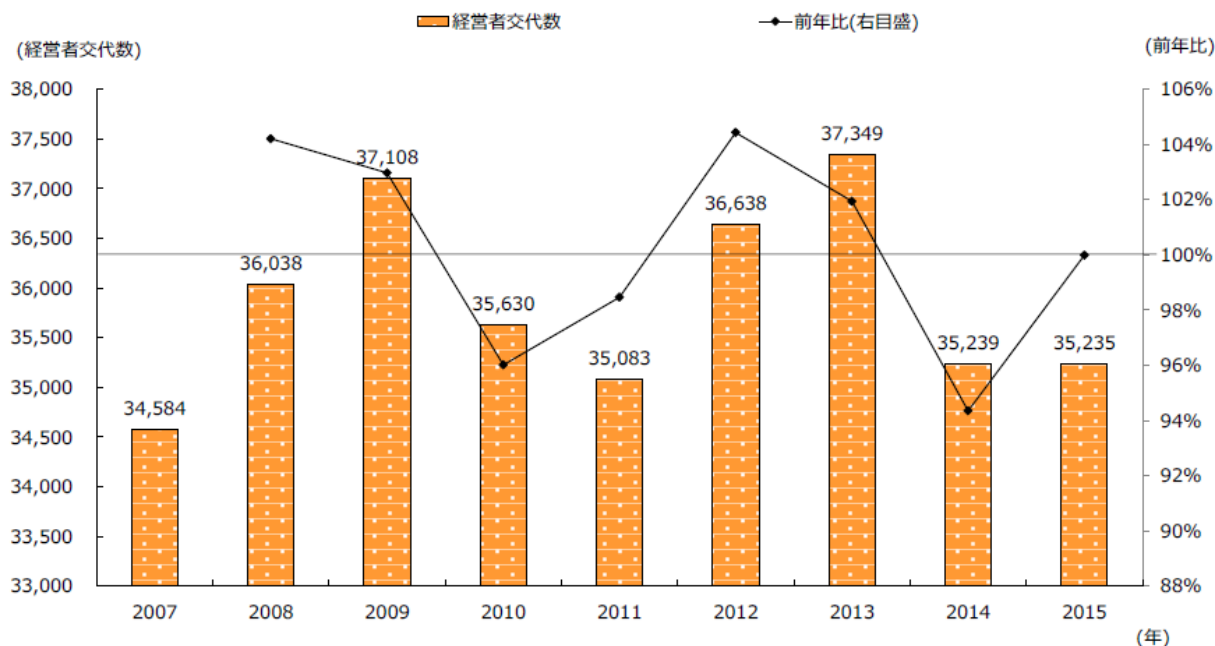


中小企業の事業承継の実態について

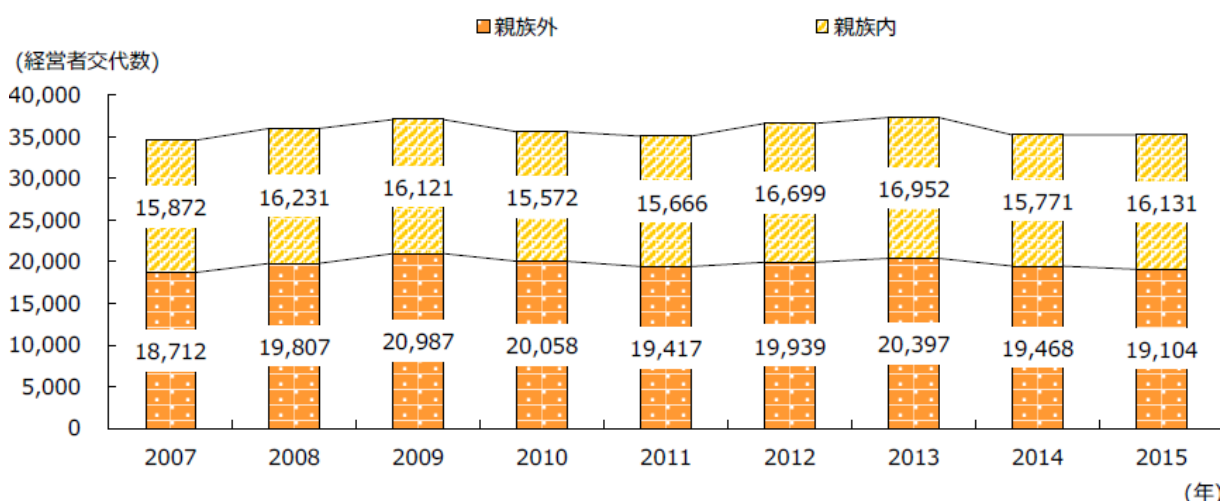
中小企業において、経営者の高齢化が進む中で、次世代への事業の継承が進んでいないと指摘されています。そこで、今回のCBCA NEWSでは、先日公表された「2017年度中小企業白書」から抜粋し、中小企業の事業承継の実態についてポイントをまとめました。(グラフは中小企業白書より)

● 経営者交代数の推移



経営者交代数は2007年以降毎年、35,000人前後で、経営者の高齢化にも関わらず増えていません。

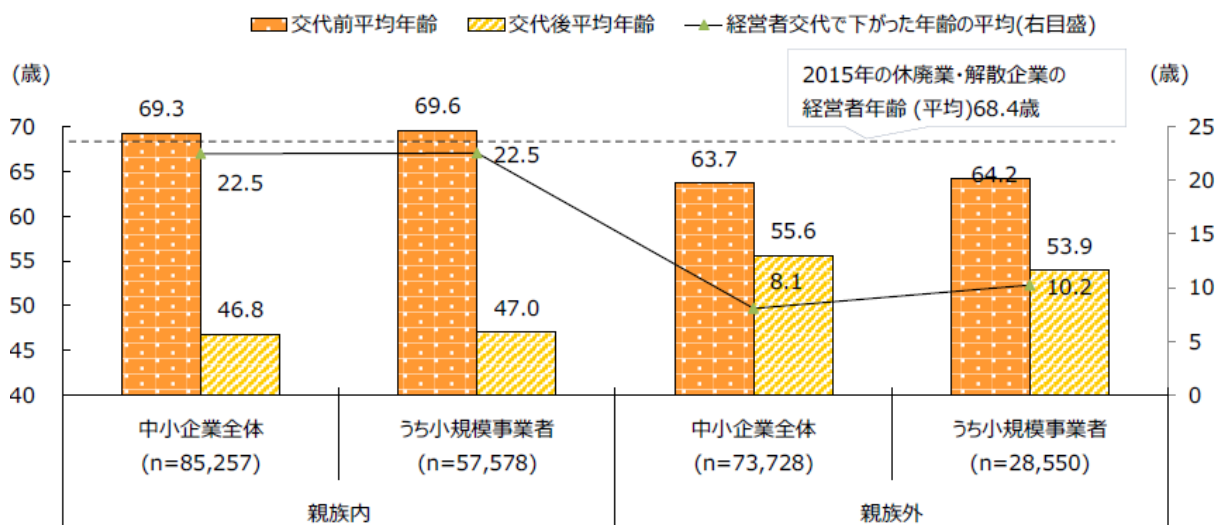
● 承継者の内訳 (親族外、親族内) と推移



注：名字の異なる親族に経営者交代した場合は親族外承継に集計。結婚等で名字が変わった場合はいずれにも含まれない。

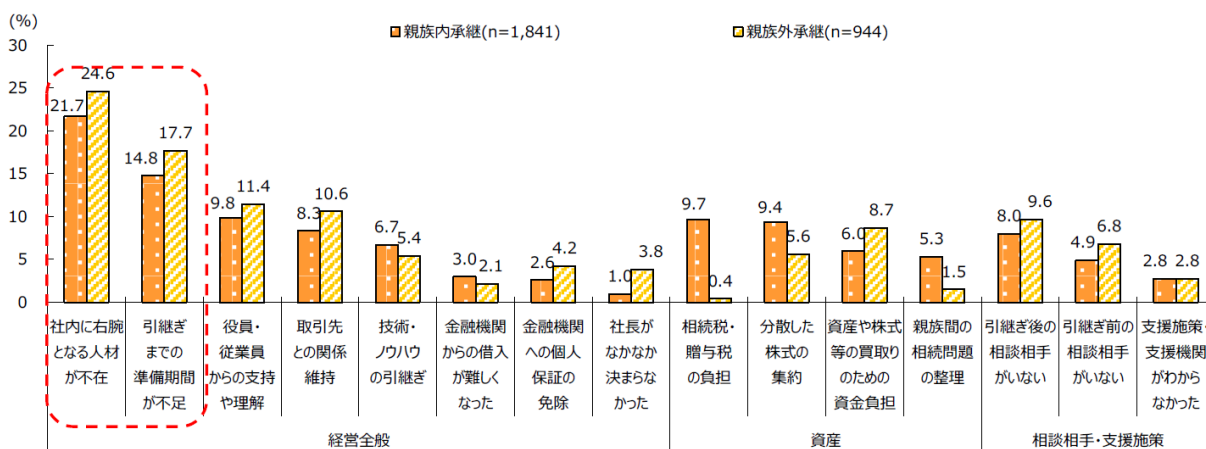
2015年の経営者交代は35,235件で、親族内つまり子や親戚などへの交代は46%に留まっています。中小企業でも、親族外承継は5割を超え一般的になっています。

● 経営者交代で変化した平均年齢



親族内承継した前経営者の平均年齢は69.3歳と高めですが、子世代へ引き継ぐことで経営者の年齢は一気に20歳以上引き下げられています。一方、親族外承継時の前経営者の平均年齢は63.7歳で、新経営者の平均年齢が55.6歳と8歳しか若くありません。せっかく事業承継しても、すぐに次の交代時期が到来するなど若返りが進みにくいのが実態です。

● 事業を引き継いだ際に問題となったこと(中規模法人の場合)



引き継ぎ時の問題として、「社内の人材不足」、「引き継ぎまでの準備期間不足」をあげる企業が目立ちます。また、親族内承継では経営者交代はしても、自社株引き継ぎが終わっていないケースも多く、相続税や分散した株式集約などが問題にあがっています。

一般社団法人全国経営診断士会
 〒112-0004
 東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル
 TEL: 03-3812-8211 FAX: 03-3812-8213
 mail@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先